

平成30年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

フリガナ カハラ マサヒデ
氏名 笠原 正 秀

研究期間 平成30年度

研究課題名 海外留学経験が女性のキャリア形成に与える影響

研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	笠原 正 秀	国際コミュニケーション学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究は、海外留学経験が女性のキャリア形成にどのような影響を与えているかを調査することを目的とするものがある。ここで言う「キャリア形成」とは、就職活動を含め、現在、実際に就いている職業、また女性としての生き方（人生観・結婚観・子供を持つということ等）まで含め、「キャリア形成」としている。本学部出身の卒業生には海外留学経験者が多く、現在、実際に就いている職業はもちろんであるが、就職活動においてどのような業界や企業を志望したのか、また結婚し子供を持つようになった時、女性の生き方として海外留学中に自分自身が異文化の中で経験したことがどのような形で生きていると実感しているのか、女性の海外留学経験とキャリア形成との関係性を包括的に情報収集することを目的とするものである。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

本研究では、本学部が実施している中期留学（英語圏）プログラムに参加した経験のある社会人（卒業生）5名を対象にインタビュー調査（面接調査）を行った。インタビューは半構造化で行った。1）留学前の自分自身の振り返り、2）留学中の自分自身の振り返り、3）帰国後の自分自身の振り返り、4）就職活動（職業選択）と留学経験、5）社会人となった今、自分自身の中で留学経験が生きていると感じること、6）留学経験が自分自身の人生観（女性としての生き方、仕事観、結婚観、子供を持つことなど、女性の人生の中で直面する事柄）や考え方に与えた影響や変化など、6つの観点からインタビューを行った。一人あたり2時間を目安にかけインタビューを行った。今回は、フォロー・インタビューは行わず、またテキストデータ・マイニングは行わず、語られた内容を中心に分析を行った。

3. 研究成果の概要 (600 字～800 字程度で記述)

今回、テキストデータ・マイニングのような発話を数量的に分析することは行わず、語られた内容そのものの解釈を中心に分析を行った。今回の調査協力者は、社会人生活5年目を迎える卒業生で、在学中、本学部が実施している中期留学プログラムに参加した経験のある卒業生5名(米国3名、カナダ2名)であった。調査協力者が現在勤務している企業での職種の内訳は、総合職3名、一般職2名であった。また、業界の内訳は商社2名、金融1名、印刷1名、サービス1名であった。その結果、以下のようなモデル・ストーリーを描くことができた。

留学前は、英語を巧みに使い、仕事を処理していくキャリア女性を夢見て留学した。海外でもそうした女性の姿を目の当たりにし、帰国後はその目標に向かって就職活動を行った。しかし、総合職であっても、一般職であっても、企業で求められた働き方はイメージしていたものとは異なり、「女性らしさ」を求めるものであった。当初は、そうした働き方に反発し、自分の意見や考えを主張したり、クリティカルな意見を述べ、仕事のできる強い女性を打ち出してみたが、結局、組織の中では浮いた存在となり、ほどなくして企業の求める「女性らしい」働き方をするようになった。しかし、社会に出て数年経った現在、そうした働き方・生き方をした方が組織の中では、社会の中では楽に生きられることに気がついた。今はこれで良いと思っている、というものであった。

こうしたストーリーを見ると、日本はホフステード(1996) [Hofstede, 1991] の指摘する「男らしい文化(男性価値の強い文化)」(日本は50か国と3地域の中で第1位)であることを再認識させられるものがあった。また、企業という組織文化の中で生きていくためには、その中で求められる姿に適応していく(社会化・文化化されていく)様子がうかがえた。これは各企業文化によるものというより、日本社会の中で求められている姿であり、つまりそれが日本の文化特性の一端と見ることはできるのではないだろうか。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

① 留学経験	② 女性のキャリア形成	③ インタビュー調査	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

今回の研究はパイロット・リサーチ段階のものであるため、調査協力者数も5名と限られた数になっている。しかし、今回の調査結果をひとつの手掛かりとして、今後もインタビュー調査を継続し、女性の留学経験とキャリア形成との関係性の構図がモデル化できる段階まで突き詰めたいと考えている。構図のモデル化ができる段階まで突き詰められたところでアンケート用紙の作成を行う。そこからは、量的データによる分析を行い、想定されたモデルが証明されるか否か、実証的に研究を進める予定である。

インタビューで得られたデータから、女性の留学経験とキャリア形成との関係性の構図がモデル化できたところで、論文化あるいは著者の所属する学会で研究発表を行い、本研究の成果を公開する機会としたい。また、科研費へも本研究をベースに、さらに発展させた研究題材で応募する予定である。その最初の一步となるものが本研究の位置づけである。